

キヤッキ通信



第61号
令和7年
11月発行

令和7年度 障害者差別解消支援地域協議会【研修会】開催報告

『児童相談所の役割について』



児童虐待から子どもを守る取り組みについて考える



10月17日、障害者差別解消支援地域協議会にて『児童相談所の役割について』というテーマで研修会を開催いたしました。講師に佐賀県中央児童相談所の平野善久氏をお迎えし、①児童虐待の現状、②児童相談所の業務、③子どもの権利、④関係機関との連携、について学びました。児童相談所が日頃からどのような取り組みを行っているか、関係機関や家族への支援体制等についてご説明いただきました。

今回の研修から、私たち一人ひとりが児童虐待を身近な問題として捉え、地域の虐待防止について改めて考える機会になったと思います。研修内容については簡単ではありますが、下記にまとめましたのでご参照ください。

研修内容について



① 児童虐待の現状

虐待の種類別内訳では面接DVが多くを占めること、また児童虐待の年齢別発生状況から年中から小1、2年生の低年齢が多くを占めることが分かりました。相談の主な背景からは、家庭状況において経済困窮や、親に「余裕がない」ことも多くあるとのことです。

③ 子どもの権利

【生きる権利、育つ権利、守られる権利、親と引き離されない権利、意見を表明する権利、教育を受ける権利、差別の禁止、表現の自由、思想・良心・宗教の自由、子どもの最善の利益】があり、「一つの権利を考えるときに他の権利を侵害していないかを考える。」とのことでした。



② 児童相談所の業務

児童相談所として、常に子どもの最善の利益を考慮し、援助活動を展開していくことが重要であり同時に難しさを感じる点である、とのことでした。また、児童相談所の基本的機能に「相談、一時保護、措置、里親支援、市町村支援」があることを説明いただきました。

④ 関係機関との連携

チーム支援を考える上で、重要なこととして「多職種・他機関みな一つのチームであり、仲間で支えあうこと」「関係機関が得意を持ち寄り補い合うこと」「家族もチームの一員であり、親子が参画できる方法を追求すること」が重要である、とのご意見をいただきました。





『医療的ケア児を知ろう』

一緒に学ぼう！楽しもう！

医療的ケアを受けながら地域で生活する

10月1日に鳥栖市のサロンパスアリーナにて、「医療的ケア児を知ろう！一緒に学ぼう！楽しもう！」をテーマに交流の場、学びの場を開催しました。1部ではデジリハの説明や体験、光風会病院ドレミ隊による、ふれあいコンサートを催しました。2部では医療的ケアを受けながら生活することが“特別”でなく“普通”であることを多くの人に知ってもらいたい想いが込められた紙芝居と、佐賀県医療的ケア児支援センター長の小野直子医師より医療的ケア児に関する基礎知識についてご講演をいただきました。

佐賀県医療的ケア児支援センター 小野直子医師より



① 医療的ケア児の定義、②佐賀県で在宅医療を受けているケア児の現状、③医療的ケア児の支援や行政との関わり、④実際の在宅生活での様子、についてご講演いただきました。

在宅生活の特徴として、家族の休息が取れないことがあります。特に母親は24時間離れることができないため、家族支援も重要になってくるとのことでした。医療的ケア児に関する知識を基礎から学び、佐賀県の現状を地域ごとに知る事ができたと思います。

参加者からの質問コーナーでは、「地域で生活するための支援や連携方法の現状は」「ケアをする上で重要なことは」などの質問が寄せられました。



参加者アンケート

- これから更に在宅医療や訪問看護としての役割が大きくなると思いました。多くの人に医療的ケア児が周知され、支援の場が広がっていけばよいと思いました。
- 地域で医療的ケア児が生活をしていくために、多くのサービスや支えが必要だと思います。支援する際は共通の認識を持ち、ご本人の意向に沿った連携ができればと思いました。
- 支援者ですが、医ケア児のサポートは未経験です。実情の一端が見えて参考にさせていただくとともに、勉強しながら、実践につなげていきたいと思います。



アンケートのご協力ありがとうございました。



デジリハ



デジリハとは…デジタルリハビリツールの略で、「リハビリを遊びに変える」「ゲーム感覚でリハビリできる」ツールです。デジリハを既に導入されている鳥栖市的一般社団法人ミルキーウェイ様より、機器類をお持ち寄りいただき、利用方法や導入メリットなどに関する説明をいただきました。

体験会で取り組んだゲームは、手首や足首などリハビリをしたい部位に専用のベルトをつけ上下に振り、スクリーンの中の植物を大きく育てるという内容でした。社会福祉法人公栄しんとすげんき保育園の年長児 20 名と医ケア児4名の方を中心に体験していただき、側で見ている子どもたちからは「頑張れ～」という声援が響いていました。

ふれあいコンサート



医療法人光風会 光風会病院ドレミ隊の皆さんによるふれあいコンサートでは、色とりどりのドレミパイプや電子ピアノ、ホルンを使い、有名なテレビ番組やアニメのテーマ曲の演奏を、また、参加者からのリクエスト曲も多く演奏していただきました。

参加者を4つのパートに分け、それぞれ違うリズムの手拍子で演奏し、医ケア児や保育園児、参加の皆さん全体で一体となり、大いに盛り上がり楽しみました。

ドレミ隊の皆さんには江本先生をはじめ多職種 20 名程がメンバーとして在籍し、練習は毎週 1 回行われているそうです。

紙芝居



佐賀県医療的ケア児就園支援コーディネーター福田さんによる紙芝居を 2 つご紹介いただきました。1 つは、経管栄養で食事を摂る子のお話「おいしいね」、もう一つは鼻水が詰まり苦しい時にチューブで鼻水を吸引する子のお話「ちーん」の2つです。

医療的ケアがどのようなもので、なぜ必要なのかを子ども達や医ケア児さんを知らない大人にも、分かりやすい言葉や絵で伝えて頂きました。

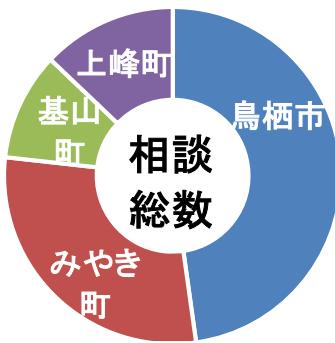
Thank you

当日は 100 名を超える方にご参加いただきました。今回の講演会を通じて医療的ケアに関する学びが深まり参加者同士、支援者同士の繋がりも広がったと思います。ご参加くださった皆さん、運営にご協力頂いた方々に感謝申し上げます。

小野先生のご講話にもあったように、医療的ケアを必要とする方は、それぞれ違う病態で1人1人対応が異なります。医療的ケアだけでなく、その子どもやご家族がどのような生活を送っているのか、どのような思いを抱えているのかを知り、考えることがより良い支援の鍵となると思います。子どもたちが、たくさんの可能性を見つけて楽しく過ごせるといいなと感じました。



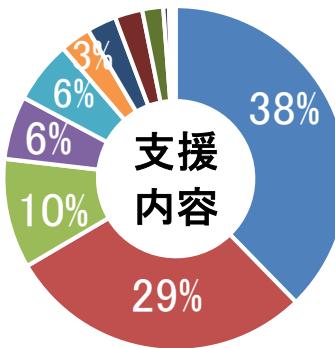
キャッチ 令和7年4月～9月の相談件数



1市3町 相談件数の総数

(件)

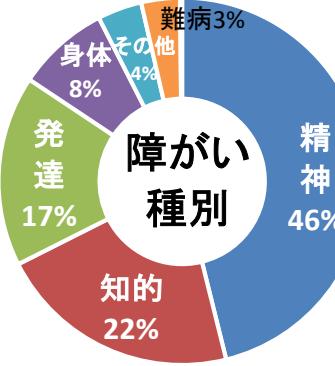
鳥栖市	みやき町	基山町	上峰町	合計
2,859	1,736	620	771	5,986



支援内容の内訳

(件)

障害・病状理解	福祉サービス利用	健康・医療	家計・経済	家族関係・人間関係	就労	生活技術
2,258	1,725	616	356	351	174	165
その他	権利擁護	不安解消・情緒安定	社会参加・余暇活動	保育・教育・療育		
153	119	31	21	17		
						合計
						5,986



障害種別の内訳

(件)

精神	知的	発達	身体	その他	難病	高次脳機能	重心	合計
2,762	1,282	1,006	488	233	204	11	0	5,986

ちょっと一息



秋の楽しみと言えば…焼き芋



秋の味覚の代表格といえば、ほかほかの「焼き芋」ではないでしょうか。焼き芋の魅力は、何と言ってもその甘さと食感。じっくりと時間をかけて焼くことで、ねっとりとした甘さが口の中に広がります。焼き芋に使われるさつまいもには、紅はるか、安納芋、シルクスイート、紅あずま等がありますが、それぞれの品種によって、甘さや食感が異なるので、食べ比べてみるのもおすすめです。

○鳥栖市・みやき町・基山町・上峰町にお住まいの障害者本人、障害のある方を支えている家族及び支援者からの相談をお受けします。障害の種別、手帳の有無は問いません。相談は無料です。

<相談窓口開設時間>

9:00～18:00（月曜日～金曜日） 9:00～17:00（土曜日）

上記の時間帯以外でもご相談をお受け致します。事前にご連絡ください。

特定非営利活動法人 総合相談支援センター キャッチ

住所:佐賀県鳥栖市宿町 1041-3

(代表)電話:0942-87-8956 FAX:0942-85-9003

Mail:so-sodan@tosumiyaki-sodan.or.jp

URL <https://www.tosumiyaki-sodan.or.jp/>

～編集後記～

今号では焼き芋について取り上げましたが、大河ドラマ「べらぼう」でも一橋治済が「薩摩の芋は うまいのう。」と言って頗張っていたシーンがありましたね。焼き芋は江戸時代後期から親しまれていたそうです。ちなみに私の好きな品種はねっとり系で強い甘さが特徴の紅はるかです☆ 酒井